

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

38

2013年12月発行

今年もお世話になりました。ありがとうございます。
すっかり遅くなりましたが、夏休みイベントのご報告

宇宙お届け便 うちゅうのたまご



～星に手をのばしてキラリと光る夢をさがそう～

日時：2013年8月24日(土) 14:30～15:30

会場：旭区在宅サービスセンター 3階 多目的室

コスモナビゲーター：たかはしまりこさん

参加者：49名(子ども18名、大人19名、
学生ボランティア7名、ほうぷスタッフ5名)

「星空から感じる、夢、勇気、未来、いのちの行方 星空を散歩しながらキラリと光る夢をさがしましょう」と、高橋真理子さん(星空工房アルリシャ主宰/山梨県立科学館天文アドバイザー/山梨県立大学他非常勤講師)をお招きして、プラネタリウム投影とお話しを楽しむ集いを開催しました。当日は、床に座り込んで、お話に耳を傾けながら壁に映し出される星を見つめたり、星でバレーボールしたり月を歩いたりして楽しみました。

<参加者の感想>

- ◇ いろんな皆さんと宇宙の話が聞けて幸せでした。この空間に居られたことに感謝します。命に思いをはせ、大切な人とのつながりを強く感じる時間となりました。ありがとうございました。涙があふれました。生きていることの不思議さを再び感じました。
- ◇ 星、月はよく見上げます。疲れたときに下ばかり見て歩いていて、ふと顔を上げるとそこに星や月が。あまりにきれいだとそれを誰かに伝えたくくなります。今日は心に感じるものがありました。私は視覚に障害のある方々と走ったり泳いだりしています。いつも、今、月がきれいだよと伝えています。今日はありがとうございました。
- ◇ 今日は貴重な体験をさせていただく事ができました。前半は子どもさんや障害のある方々と一緒に話を聞かせてもらいました。少し遅れてきましたが、室内がとても優しい雰囲気でした。後半は、また違う大人に向けた切口で話をさせていただき、相手(対象)によって星の魅力を素敵に語っておられることにとっても感動しました。オーロラを見に行きたいと、行けるかな～とまで感じてワクワクしました。

- ☆ プラネタリウムを見せていただけると聞いて参加しました。星座のお話がほとんどだと思っていたのですが、宇宙のお話でとても楽しかったです。一番感動したのが、3月11日の夜の満天の星の事、とても心に残っています。これからは、空の星を見るようにしようと、すごく思いました。落ち込んでいる時とか、力を与えてくれる星はすごいとつくづくわかりました。昔から思っていたオーロラ。今日のオーロラで絶対、自分の目で見てみたいと強く思いました。
- ☆ 子どものころに戻ったかのように、とても感動しました。もっと宇宙の事が知りたくなりました。本当にありがとうございました。
- ☆ 街の灯りを消したときの星空の美しさに鳥肌が立ちました。あのたくさんの星々を見て、星座を作った昔の人の想像力はすごいと思いました。普段はあまり考えたり見えないのちの始まりを子どもたちと一緒に感じさせてもらう事ができました。夜が来るのが楽しみになりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- ☆ 星がきれいだった。地球がきれいだった。星座はわからなかった。楽しかった。
- ☆ バリアフリーと言ったらいいのでしょうか…五感を働かせて見る星の投影を行うようになられたきっかけについてももう少し詳しく聞きたいと思いました。
- ☆ プラネタリウムには行ったことなかったですし、星は見えないので、私には無縁だとも思っていたのですが、今回、参加させていただいて、見えないですが、時々、「今日のこの空にもこの間の説明みたいなきれいな星が広がってるのかな」と空を見上げて少し想像するようになりしました。この間のお話で少し星がどういうものか想像できるようになった気がします。本当に参加してよかったです。
- ☆ 久しぶりに癒されました。ありがとうございます。クイズもあり、子ども達も楽しめてよかったです。オーロラなどの映像も一緒に見られたら良かったなあと思いました。星も好きですが、月も好きなので、話が聞けて良かったです。洗濯物を干しながらではなく、ゆっくり今日は眺めてみようかな。ビール片手に。月の出る時間があるのはびっくりです。あの月って昼間も見えています、あれはまた違う？星になりたい…の詩、いい詩ですね。静かに光を…というのが、私にとって子どもに
対して静かに見守ることなのかと聞いていました。



＜ボランティアの感想＞

- ☆ 子どものとき以来にプラネタリウムを見ました。たくさん子どもや障害者の方々の声の中で見る星空は、幻想的でした。学生ボランティアと言っておきながら、何も大した手伝いができませんでしたが、大変楽しませていただきました。
- ☆ 天体ショーが始まる前に、いきなり、「これから月に行く。月で歩いてみてください」と言われて驚きましたが、めったにできない貴重な体験をさせていただいて、楽しかったです。星については大学で少し学びましたが、より詳しく知ることができませんでした。ぜひ、大学でも講義をしていただきたいです。
- ☆ 今日は、プラネタリウムと一緒に見るということを知ったので楽しみにしていました。自分も星が好きなので、すごく楽しめました。ただ、前に出て先だって(月を歩くとか)やってほしいと言われたのには驚きました。またあれば、参加したいと思っています。今日はありがとうございました。

- ☆ 今回は、準備に時間がかかったり、遮光シートがはがれるハプニングあったりしたけど、楽しく活動に参加できたし、プラネタリウムもきれいだったので、参加してよかったと思いました。
- ☆ とてもきれいで、また、わかりやすく、クイズも入っていたので、すごく楽しむことができました。絵本を子どもたちと一緒に読んだのですが、触って面白そうでした。クッキングのイベントの時とはまた違ってリラックスして楽しめました。

<アルリシャ通信(星空工房アルリシャ高橋真理子さん発行) vol.6 あとがき より> (抜粋)

8月もまた思い出深いことがたくさんありました。特に、この13年来の大阪の大切な友人が関わるNPO、そこはさまざまな障害をもつ人たちを含む老若男女が集うところなのですが、そこで宇宙のお話をさせてもらったこと。彼女が関わる福祉という領域と自分の宇宙という領域、何か一緒にできることがあるのではないかと漠然と思っていた13年前。思えば「宙をみていのちを想う」というテーマは、このときから心の下のほうに芽生えていたのだろう、と思います。そして、「いつかきっと一緒に仕事しよう」と約束しながら、互いに多忙な年月を経てやっとそれを果たした、というのが先日の会でした。そのNPOのスタッフの小学生の娘さんがつい1ヶ月前に天に召されたことに想いをはせる機会であることも、最初の挨拶にてみんなに共有され、その方とその後、娘のめいちゃんについてたくさんお話できたこと、私自身の救いとなりました。その会に誘ってくれた友人の言葉以上に、自身でそれに結びつく表現ができないので・・・借用させていただきます。

医学知識や専門職による支援の限界を認識すればこそ、
物語でもって亡き人を悼み、
物語でもって死を受け入れることを人間は必要としています。
そこに数多の芸術を生じせしめる必然があるのだとも思います。



旭区情報

あさひあったかまちづくり

あさひあったかきち

毎月「あったか座」開催中



8月から毎月第3土曜の午後に(変更になること有り)、あったか座を開催しています。参加費は無料です。演目は毎回変わります。地域の方々が特技を披露してくださっています。

演じてみたいという方は、以下、事務局までご連絡ください。

来てや!
寄ってや!

あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会事務局
建福祉課(地域福祉) ☎6957-9857
社協議会 ☎6957-2200



和んで座談会

20回記念バスツアー

10月12日、第20回記念のバスツアーがありました。

秋晴れの中、信太山青少年野外キャンプ場でカレー作りをしました。78名の参加でした。

1月18日は恒例のお餅つきを予定しています。旭区在住の障害児者や家族の方々、支援者の方々の交流の場です。ご参加お待ちしております!

慌ただしい日々に流され、冬が来てしまいました。「子ども支援」は「家族支援」を感じさせられることの多い日々でした。「[自分]のせいではないのに何でこんなことが！」と不条理を感じることも多々あった日々でした。「前向きに開き直るしかない」と自分に言い聞かせ、改めて、初心忘るべからず、理想を追い求めることを忘れず恐れず、です。風邪が流行っているようです。くれぐれも気をつけてください。来年もどうぞよろしく願い申し上げます。

